

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 山口県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	山口市立大内小学校 第4学年 全4クラス 110名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	北京パラリンピック車椅子バスケット代表、藤田さんのお話しを聞き、共生社会の参画者としての意識を高め、パラスポーツや車椅子ボッチャ（チャレンジスポーツ）への理解を深める。
5 取組内容	<p>パラリンピアン、藤田さんの体験を聞く。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; padding-left: 10px;"> <p>← 藤田さんのお話。チャレンジスポーツの説明や、車椅子バスケットボールの内容、ボッチャへ携わるようになった経緯などをお話頂いた。</p> </div> </div> <p>車椅子ボッチャ体験をする。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; padding-left: 10px;"> <p>← 車椅子ボッチャを体験する。することだけでなく、見ることや支えることも立派なスポーツへの関わり方であることを伝えていただいた。</p> </div> </div>

<p>6 主な成果</p>	<p>以下、児童の振り返りを掲載する。 『僕は障害には3つの障害がある事や、チャレンジドスポーツという言葉が藤田さんの話で初めて知りました。ぼくが楽しかったのは、ボッチャを応援する時です。自分でやるだけでなく、みんなで応援することがこんなに楽しいとは思いませんでした。』</p> <p>→スポーツをするだけでなく、支えることや見ることにも喜びを感じている児童が現れ、スポーツとの多様な関わり方が見て取れる。</p> <p>『ボッチャの体験や、藤田さんのお話を聞いて、2020年の東京オリンピックに興味がわきました。いつもはオリンピックをテレビで見ますが、パラリンピックを見て応援をしたいと思うようになりました。』</p> <p>→パラリンピックに対する興味関心を高めることができていたことが見て取れた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>パラリンピアンとの交流の前に、視覚障害者の方のお話を聞いたり、車椅子体験をしたり、高齢者疑似体験をしたり、点字の学習をしたりするなど、福祉に関する様々な実体験を通して、子どもたちの興味や関心が高まった状態で臨むこととした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>沢山の体験を通して子どもたちの理解を深めようとするほどに、外部団体との連絡調整が煩雑になったこと。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>来年度も4年生を対象に総合的な学習の時間で福祉学習を位置づけ、2020年へ向けてさらにオリンピックパラリンピックに対する興味関心を高めていきたい。</p>